

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 畫

與本館

國信義精

字大開定山學

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	21	通 期	4 単位	宮 本 孝 二
[講義概要・学習目標]	<p>[講義計画]</p> <p>①社会学の歴史の概要と全体像 ②現代社会の分析：社会生活の基本的な場に見られる変動の諸トレンドと、それにかかわる諸要因、諸帰結の因果連鎖 ③変動の基本要因としての科学技術の諸相 ④科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑤情報科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑥高度産業社会における労働、職業および経営 ⑦専門職の職業的社会化と組織 ⑧家族の構造と形態の諸類型 ⑨家族の機能と逆機能（家族問題） ⑩家族の類型と機能をめぐる諸トレンド ⑪家族問題の解決と地域社会の役割 ⑫地域社会の構造と形態の諸類型 ⑬都市化と都市問題 ⑭過疎化と地域開発問題 ⑮地域社会を構成する集団・組織と地域問題 ⑯アイデンティティ問題 ⑰現代社会の不平等と差別 ⑱いじめ問題 ⑲消費生活と廃棄問題 ⑳政治的無関心と暴力 ㉑宗教問題 ㉒犯罪と非行 ㉓グローバルな問題（戦争、飢餓、環境など）</p> <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
[成績評価の方法]				
[教科書]				
<p>後期テストの結果に、出席点、小テスト、レポートなどを加味して総合的に評価する。</p> <p>倉橋・丸山編『社会学の視点』ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	21	通 期	4 単位	清 水 由 文
[講義概要・学習目標]	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 社会調査にかんするビデオをみて、視覚的に社会調査の理解をする。 2. 社会調査とは何か 定義、社会学理論との関係 3. 社会調査の展開 (1) ヨーロッパ・アメリカ、プースのロンドン調査、メイヒューの貧困調査 (2) 日本 戸田貞三の「家族構成」、国勢調査 4. 社会調査の方法 (1) 統計的調査法 (1) サンプルング (2) 随機 配票調査、集合調査、郵送調査、面接調査 (2) 事例的調査 参与観察、面接法 5. 調査票の作成 (1) 問題設定 (2) 調査項目の選択 (3) ワーディング (4) 調査票の構成 6. 調査票の集計方法と表の作成方法 (1) 単純集計 (2) クロス集計 (3) 検定 7. ライフストーリーの調査法 8. 社会調査テスト 前期最終講義に実施 9. ライフストーリーレポート作成 (夏休みのレポート)</p> <p>(後期) 1. 実習のグループ分け 2. 意識調査のための問題発見および仮説の設定 3. 調査票の作成および印刷 4. 意識調査の実施 5. 調査票の分析 (1) 単純集計 (2) クロス集計 (3) 検定 6. 意識調査の報告および最終報告書の作成 7. 意識調査の報告書の提出</p>			
[成績評価の方法]				
[教科書]				
<p>われわれは、テレビ、新聞などのマスメディアでの調査結果の統計やグラフをみることに より現代社会をより明確に理解することができることを知っている。そして、社会調査で はそのような資料の調査方法およびその解釈方法を学習することを目的としている。さら に、社会学ではそのような調査結果をとおしてより精密な社会学理論を構築することもで きるのである。したがって、本講義では社会調査の理論と技法を習得するというステップと それを、実際に調査票を作成して実習するという2つのステップを採用する。</p> <p>前期試験（20％）、レポート（20％）、出席（30％）、最終報告書（30％）に より総合評価する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	01	前期集中	2単位	石田 易司
	02	前期集中	2単位	岡井 哲明
	03	前期集中	2単位	坂本 光哉
	04	前期集中	2単位	瀧澤 仁唱
	05	前期集中	2単位	松端 克文
	06	前期集中	2単位	松本 眞一
	07	前期集中	2単位	安原 佳子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 社会福祉の現場実習を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</p> <p>2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。</p> <p>3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもつづいた態度・行動ができるようにする。</p> <p>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</p> <p>5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。</p>	<p>1 実習オリエンテーション</p> <p>2 視聴覚学習</p> <p>3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話</p> <p>4 現場体験学習</p> <p>5 見学実習</p> <p>6 見学実習記録に基づくレポートの作成</p> <p>7 全体総括</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>・出席重視</p> <p>・レポート 等で総合的評価</p>	<p>糸賀一雄著『福祉の思想』（NHKブックス）</p> <p>小山内美智子著『あなたは私の手になれますか』（中央法規）</p> <p>社会福祉実践理論学会編『基礎用語辞典』（川島書店）</p>			
[教科書]				
授業時指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉原論		通 期	4単位	松 本 眞 一
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解させる。</p> <p>2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について、老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意させつつ理解させる。</p> <p>3 社会福祉サービス体系の概要について理解させる。</p> <p>4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。</p> <p>5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。</p> <p>6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。</p> <p>7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。</p>	<p>1 現代社会と社会福祉</p> <p>1) 社会福祉理念の発達</p> <p>2) 概念と範囲</p> <p>3) 役割と意義</p> <p>2 社会福祉対象の把握方法</p> <p>3 社会福祉援助の具体的な形態と方法</p> <p>4 社会福祉援助活動における専門性と倫理</p> <p>1) 専門性と専門職の内容</p> <p>2) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方</p> <p>3) 社会福祉援助活動と倫理</p> <p>5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容</p> <p>6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要</p> <p>1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係</p> <p>2) 社会福祉の実施体制</p> <p>3) 社会福祉の財政と費用負担</p> <p>7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。</p>	<p>福祉士養成講座編集委員会（編）</p> <p>『社会福祉士養成講座 第1巻 社会福祉原論』中央法規出版</p>			
[教科書]				
松本眞一 編著 『現代社会福祉論』ミネルヴァ書房（1998年刊）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者	
社会福祉援助技術総論		後期集中	4単位	小 山 隆	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。</p> <p>2 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。</p> <p>3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。</p> <p>4 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。</p> <p>5 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 社会福祉サービスと援助活動の関係</p> <p>2 福祉専門職と専門援助技術の関係</p> <p>3 専門援助技術の歴史的展開</p> <p>4 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題</p> <p>1) 社会福祉援助活動の目的と価値</p> <p>2) 社会福祉援助活動の原則</p> <p>3) 社会福祉援助活動の諸過程</p> <p>①受理面接（インテーク）と社会診断</p> <p>②社会治療</p> <p>③終結</p> <p>4) 社会福祉援助活動の共通課題</p> <p>①契約・介入・課題の意義と方法</p> <p>②面接の意義と方法</p> <p>③記録の意義と方法</p> <p>④評価の意義と方法</p> <p>⑤スーパービジョンの意義と方法</p> <p>⑥ケースマネジメントの意義と方法</p> <p>5 専門援助技術の体系及び内容</p> <p>1) 直接援助技術</p> <p>①個別援助技術（ケースワーク）</p> <p>②集団援助技術（グループワーク）</p> <p>2) 間接援助技術</p> <p>①地域援助技術（コミュニティワーク）</p> <p>②社会福祉調査法</p> <p>③社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）</p> <p>3) その他の関連専門援助技術</p> <p>6 社会福祉援助活動の場と専門援助技術</p> <p>7 専門援助技術と倫理</p> <p>8 専門援助技術の統合化とチームによる対応</p> <p>9 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席点 ②レポート点 ③年度末試験</p>		<p>[参考文献]</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>適宜紹介する。</p>					

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論ⅠA		通 期	4単位	小 西 加保留
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。</p> <p>2 個別援助技術（ケースワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等にどのように適用され問題解決へと導くのか、介護と関係づけて事例を通して理解させる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけとその内容・性格について</p> <p>2 個別援助技術（ケースワーク）の理論と技法・技術</p> <p>①直接援助技術と個別援助技術</p> <p>②個別援助技術の意義と特徴</p> <p>③個別援助技術の歴史</p> <p>④個別援助技術の構造と構成要素</p> <p>⑤個別援助技術の機能</p> <p>⑥個別援助技術の援助関係と原則</p> <p>⑦個別援助技術の展開過程と技術</p> <p>・受理面接（インテーク）と社会診断</p> <p>・社会治療</p> <p>・終結</p> <p>⑧個別援助技術の新動向（統合論など）</p> <p>⑨面接の意義と技法・技術</p> <p>⑩記録の意義と方法</p> <p>⑪効果測定の意義と技法・技術</p> <p>⑫個別援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性</p> <p>⑬スーパービジョンの意義と方法</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出、出席状況、学年末試験によって評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>バイステック（著）『ケースワークの原則』（誠信書房）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>大塚達雄、井垣章二、沢田健二郎、山辺朗子（編著） 『ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎』（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論 I B		通 期	4 単位	石 田 易 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。</p> <p>2 集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格</p> <p>2 集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術</p> <p>①直接援助技術と集団援助技術</p> <p>②集団援助技術の意義と特徴</p> <p>③集団援助技術の歴史</p> <p>④集団援助技術の構造と構成要素</p> <p>⑤集団援助技術の機能</p> <p>⑥集団援助技術の援助関係と原則</p> <p>⑦集団援助技術の展開過程と技術</p> <p>・準備期</p> <p>・開始期</p> <p>・作業期</p> <p>・終結期</p> <p>⑧集団援助技術の各種モデル</p> <p>⑨観察の意義とその技法・技術</p> <p>⑩記録の意義とその方法</p> <p>⑪効果測定の意義とその技法・技術</p> <p>⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性</p> <p>⑬スーパービジョンの意義とその方法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎日の授業中のレポートと期末のレポート</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『たくさんの？を話し合う本』（朝日新聞厚生文化事業団）</p> <p>『いきいき高齢者キャンプ』（朱鷺書房）</p> <p>『新しいグループワーク』（YMCA同盟）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『さかさまの星座』（オモドック）</p> <p>『痴呆症老人とキャンプ』（朱鷺書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域福祉論		前期集中	4 単位	上野谷 加代子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 地域福祉の理念と内容について理解させる。</p> <p>2 地域福祉の推進方法について理解させる。</p> <p>3 地域福祉の現状について理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉</p> <p>2 現代社会と地域福祉</p> <p>1) 地域福祉理念の発達</p> <p>2) 概念と範囲</p> <p>3) 役割と意義</p> <p>3 地域福祉の構成</p> <p>3) サービス提供組織とその運営方法</p> <p>4) マンパワーの構成及びその動員方法</p> <p>5) 財源の構成とその調達の方法</p> <p>6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方</p> <p>5 地域福祉の現状</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業時の小テスト 学年末テスト、レポート等により総合的評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規）</p> <p>他は授業時に提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書 第10巻 全国社会福祉協議会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際社会福祉論		9・12月集中	4 単位	岡 田 徹
[講義概要・学習目標] <p>ねらい：地球時代（global century）と呼ばれる21世紀を間近にして生きる私たちにとってキーワードとなる「社会福祉」と「国際化」を、社会福祉学のなかで最も創発的な研究領域である「国際社会福祉論」に着目して考える。また社会福祉を国際的な視野のもとで捉えることをとおして、地球社会の一員であるという自覚や、異なる文化や価値観に対する理解や尊敬の念を養う。受講生には、国際社会福祉の経験や思想、知見や視点を、自分の専門研究に照らして吟味し、また自分の生活や人生の問題として受け止めていただきたい。</p> <p>進め方：講義形式でおこなうが、ビデオを観たり、討論をおこなったりする予定である。また授業時に小レポートを作成し提出してもらう。</p>	[講義計画] (1) オリエンテーション（担当者自己紹介、授業日程の説明等） (2) なぜ今「国際社会福祉」か (3) 国際社会福祉とは何か（定義） (4) 国際社会福祉の歴史的生成展開過程（1920年代～） (5) 国際社会福祉の存立根拠 ①脱主権国家化 ②グローバルな市民社会の形成 ③社会福祉のグローバル・ミニマムの制定） (6) 国際社会福祉の問題領域（貧困、南北問題、戦争難民、移民・外国人労働者問題、人権侵害・差別、環境破壊） (7) 国際社会福祉の担い手（国際政府間機関、国際市民組織、国際社会福祉専門職能団体） (8) 国際社会福祉の諸課題 ①研究課題／社会開発型ソーシャルワークの構築 ②実践課題／内なる国際化の問題 ③教育課題／国際ソーシャルワーカーや国際ボランティアの養成） (9) 市民社会の成熟にむけて／政治（国家・行政）・経済（市場・企業）・市民社会（生活文化）のセクター・バランス (10) 世界の社会福祉			
[成績評価の方法] <p>評価方法等：授業時の小レポートおよび試験</p>	[参考文献] <p>授業時に適宜紹介する。</p>			
[教科書] <p>教科書：岡田徹他編著『世界の社会福祉』（学苑社 3,400円） 松本真一著『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房 2,800円）</p> <p>参考書：授業時に必要な資料をプリント配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医学一般		通 期	4 単位	郭 麗 月
[講義概要・学習目標] <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん、成人病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 			
[成績評価の方法] <p>レポート、定期試験の成績で評価する。</p>	[参考文献] <p>適時紹介する。</p>			
[教科書] <p>福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座14「医学一般」（中央法規）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ボランティア論		後 期	2 単位	岡 本 栄 一
【講義概要・学習目標】 <概要> ボランティア活動全般について体系的に講義し、討議するようなことを考えている。また、ゆとりがあれば、現場経験をさせたい。さらに学生の要望によっては、他のもので「コーディネーター」の問題に時間をとることも考えたい。 <学習目標> ボランティア活動が身近なものであり、現代社会では不可欠なものであることを体得できるような方向で学習できれば、と考えている	【講義計画】 (変更あり) ① ボランティア活動の現在 ↳ 今、どんなボランティア活動があるのか ② ボランティア活動はなぜ必要か ↳ その社会的役割 ③ ボランティア活動の理念と思想 ↳ ボランティア活動の展開 = 3 ↳ (c) 児童ボランティア ④ ボランティア活動とその関連領域 = 1 ⑤ ボランティア活動の展開 = 4 ↳ 行政、NPOとボランティア活動 ↳ (d) 環境ボランティア ⑥ ボランティア活動とその関連領域 = 2 ⑦ ボランティア活動の展開 = 5 ↳ 専門職とボランティア ↳ (e) 国際ボランティア ⑧ ボランティア活動の展開 = 1 ⑨ ボランティア・アクション論 ↳ (a) 障害者とボランティア ↳ ボランティア運動、権利保護活動 ⑩ ボランティア活動の展開 = 2 ⑪ 福祉教育とボランティア学習 ↳ (b) 高齢者ボランティア ↳ 教育、人間形成とボランティア活動 (上記の他、場合によっては補講および ボランティア活動体験を含めて単位を 認定することがあります) ⑫ ボランティアコーディネーター論 ↳ ソーシャルワーカーとしての役割 ⑬ ボランティアセンター論 ↳ 活動拠点			
【成績評価の方法】 <評価> 学習意欲とレポートで	【参考文献】 必要に応じて提示する			
【教科書】 <教科書> 参考書として 『ボランティア=参加する福祉』 ミネルヴァ書房刊、を用いる				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	01 02 03 04 05 06 07	通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	大 西 雅 裕 郭 麗 月 北 野 誠 一 坪 山 孝 松 端 克 文 安 原 佳 子 坂 本 光 哉
【講義概要・学習目標】 1 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力・技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。	【講義計画】 1 実習オリエンテーション（社会福祉現場実習の概略を学ぶ） 2 福祉施設・機関・団体研究（視聴覚学習、現場体験学習、見学実習） 3 専門援助技術実技指導（事例研究・ロールプレイを含む） 4 面接実技指導 5 記録実技指導 6 評価・効果測定実技指導 7 配属実習 8 実習先個別報告と評価 9 業務分析 10 事例研究・実習計画モデル作成 11 実習記録に基づく実習総括レポートの作成 12 個人スーパービジョン（自己覚知）及び集団スーパービジョン 13 全体報告・総括会			
【成績評価の方法】 全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。	【参考文献】 授業時、提示する。			
【教科書】 授業時、提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医療保健福祉論（旧医療福祉論）		通 期	4 単位	小西 加保留
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療保健福祉の理念と意義を理解させる。 2 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施設の概要について理解させる。 3 医療保健福祉／精神保健福祉の対象者の人権について理解させる。 4 医療保健福祉の対象と機能を理解させる。 5 医療保健福祉の相談援助活動の内容を理解させる。 6 医療保健福祉施設の概要について理解させる。 7 社会福祉士及び介護福祉法、関連する法律の意義と内容について理解させる。 	<p>[講義計画]</p> <p>[内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療保健福祉の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保健福祉の発達 2) 予防、治療、ケアにおける医療保健福祉 3) 健康と疾病と障害の概念 2 障害者福祉の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉の理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害者福祉の発達 (2) ノーマライゼーション (3) 生活の質 (QOL) (4) 生活支援 2) 障害及び障害者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害の概念 (2) 障害分類 (国際障害者分類を含む) (3) 精神障害者の特性 3) 障害者福祉の基本施策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害者基本法 (2) 障害者プラン 3 医療保健福祉／精神保健福祉の対象者の人権 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利 2) 地域社会における精神障害者の人権 3) 精神医療における権利保護 4) 精神障害者の権利保護委員会 5) インフォームド・コンセント 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出、出席状況、学年末試験によって評価する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 4 医療保健福祉の対象と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保健福祉の対象 <ol style="list-style-type: none"> (1) ライフサイクルと医療保健福祉 (2) 医療機関、老人保健施設等の医療保健福祉 2) 医療保健福祉の機能 5 医療保健福祉／精神保健福祉の相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助活動の方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済的問題への援助 (2) 療養中の心理社会的問題への援助 (3) 受診・受療援助 (4) 退院援助 (5) 地域活動 2) 相談援助活動の事例 6 医療保健福祉施設の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保健福祉施設に関する行政組織 2) 医療施設の実態と医療保健福祉 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療制度と医療保健制度の変遷 (2) 医療関係施設と医療従事者 7 社会福祉士及び介護福祉士法、関連法の意義と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉士及び介護福祉士の意義と内容 2) 関連法 			
<p>[教科書]</p> <p>講義時に提示する。(プリント資料)</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療ソーシャルワーク研究会「保健医療ソーシャルワーク・ハンドブック」(理論編・実践編) 中央法規出版 1990 ・保健医療の専門ソーシャルワーク研究会「保健医療の専門ソーシャルワーク」 中央法規出版 1996 ・杉本照子、森野節子 監修 「ソーシャルワークの業務マニュアル」 川島書店 1997 			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設運営論		後 期	2 単位	坪 山 孝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日の社会福祉施策や援助活動は、ノーマライゼーションおよび在宅生活の継続性等を目標としている。そのことは社会福祉施設にも地域化や多機能化の課題を与え、社会福祉施設のあり方について大きな変化をもたらしたが、現在でも施設の重要な役割は利用者に対する援助にある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える資源（社会的装置）という視点から社会福祉施設の有用性を考え、そのために公的責任の果たす役割について研究する。</p> <p>また、施設の経営主体の形態や処遇・人事・財務等の諸管理について講義をし、総合的に施設の運営管理を学習する契機としたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉施設の沿革 2 社会福祉施設の体系と制度 3 社会福祉施設の経営と社会福祉法人の制度 4 利用者のニーズとサービス 5 社会福祉施設と地域社会 6 社会福祉施設と業務運営 7 社会福祉施設の従事者の動向 8 社会福祉施設の建物、設備 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験の結果による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時、授業中に紹介する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新・社会福祉学習双書 編集委員会編 「社会福祉施設運営論」 全国社会福祉協議会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉法制論 (旧社会福祉法制)		通 期	4 単位	瀧 澤 仁 唱
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉(狭義)の法制度全体の理解 2 社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解 3 社会福祉に関連する諸法規の理解		[講義計画] 1 ガイダンス 2 社会福祉の意義 3 社会福祉法の発生 4 憲法と社会福祉法 5 社会保障法の中の社会福祉法の位置 6 社会福祉事業法(1) 7 社会福祉事業法(2) 8 社会福祉事業法(3) 9 社会福祉事業法(4) 10 社会福祉事業法(5) 11 障害者福祉法(1) 12 障害者福祉法(2) 13 障害者福祉法(3) 14 障害者福祉法(4) 15 障害者福祉法(5) 16 障害者福祉法(6) 17 障害者福祉法(7)		18 老人福祉法(1) 19 老人福祉法(2) 20 老人福祉法(3) 21 老人福祉法(4) 22 児童および母子福祉関係法(1) 23 児童および母子福祉関係法(2) 24 児童および母子福祉関係法(3) 25 児童および母子福祉関係法(4) 26 児童および母子福祉関係法(5) (授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)
[成績評価の方法] 論述式筆記試験		[参考文献] 『社会福祉六法 1999(平成11)年版』(新日本法規)		
[教科書] 開講時に指示する(最近、社会福祉関係法規の改正が多いので、改訂作業が間に合った教科書を使う予定です)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会保障論		通 期	4 単位	里 見 賢 治
[講義概要・学習目標] 1 現代社会における社会保障の理念・意義について理解させる。 2 社会保障制度の体系について理解させる。 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。 4 我が国の年金保険について熟知させる。 5 我が国の民間保険について熟知させる。 6 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。		[講義計画] 1 現代社会と社会保障 1) 社会保障理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会保障制度の体系 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 労災保険 4) 失業保険(雇用保険) 5) 家族手当(児童手当) 6) 公的扶助 7) その他関連制度 4 我が国の年金保険制度とその具体的内容 1) 国民年金 2) 厚生年金 3) 各種共済組合の年金 5 我が国の医療保険制度とその具体的内容 1) 国民健康保険 2) 健康保険 3) 各種共済組合の医療保険 6 公的施設と民間保険 1) 公的施設との関係 2) 現状 7 社会保障の実施体制及び専門職		
[成績評価の方法] 定期試験等で総合的に評価する。		[参考文献] 里見賢治(著)『日本の社会保障をどう読むか』(労働旬報社、1990年) 里見賢治、二本立、伊東敬文(共著)『公的介護保険に異議あり』(ミネルヴァ書房、1996年) 里見賢治ほか(共著)『福祉財政論』(ミネルヴァ書房、1989年) 一圓光弥(著)『自ら築く福祉』(大蔵省印刷局、1993年) その他、適宜紹介する。		
[教科書] 授業時提示				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉行財政論		後期	2 単位	武田 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>急速な少子化・高齢化と家族・地域生活様式の変化、就労構造の変化（特に女性の就労形態・意識の変化）は、広義の社会福祉サービスへのニーズを急速に増大させています。日本政府の高齢者保健福祉推進10カ年戦略（1990～1999年度）、地方老人保健福祉計画の策定、障害者プランなどは、それらへの政策的対応でした。しかし、その進捗状況を見るならば、地域・自治体レベルで住民の福祉ニーズが満たされているとはいえません。</p> <p>この講義では、公的社会福祉サービス（民間の社会福祉法人・社会福祉協議会等に委託されている事業も含む）の経済的基盤である、社会福祉行財政制度について、国・地方の関係（税・財源と歳出）、地方自治体と民間団体の関係（施設・在宅福祉サービス）、国民の福祉サービスへの権利と利用者負担（費用徴収制度）などについて述べてゆきます。講義方法は、テキストの内容をもとに講義する予定です。</p> <p>なお、保育制度への契約方式導入、介護保険法成立、社会事業法改正など制度変更が現在進行形でおこなわれています。そのため、新聞記事等をもちい、そうした事例の紹介・解説などを含めて、講義をすすめるつもりです。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：日本の行財政構造と社会福祉活動の位置 2. 地方財政における「民生費」の位置と推移 3. 社会福祉施設の経営と行財政制度（措置費制度） 4. 在宅福祉サービスと行財政制度 5. 社会福祉事業の民間委託（民営化） 6. 社会福祉の費用徴収（利用者負担） 7. 契約システム（介護保険制度・保育制度）の導入と社会福祉行財政 8. 社会福祉行財政の国際比較 9. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主として試験によります。なお、試験の前には、問題の例示などをおこないます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>坂寄俊雄『図説日本の社会保障』法律文化社、1996年。 右田紀久恵等『福祉財政論』ミネルヴァ書房、1989年。 成瀬龍夫等『福祉改革と福祉補助金』ミネルヴァ書房、1989年。 竹中哲夫等編『新版現代の社会福祉』みらい、1998年。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田 宏『高齢者福祉の財政課題：分権型福祉の財源を展望する』あけび書房、1995年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉計画論		前期集中	4 単位	松原 一郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会福祉施策を具体的に・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの動きや政策と不可分の関係にある。</p> <p>社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画——介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン——についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>レクチャーとディスカッションで2コマを形成する。</p> <p>前半 ①社会変動と社会福祉制度 ②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素 ③公的計画と民間計画</p> <p>後半 ④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等 ⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常試験による。（レポート・発表を含む）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉計画』定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996 『厚生白書』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
老人福祉論		通 期	4 単位	坪 山 孝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。 3 老人の福祉ニーズの把握方法について理解させる。 4 老人福祉の法とサービスの体系について理解させる。 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 老人のための地域及び住環境の整備と福祉機器について理解させる。 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢社会と老人 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化と老人 2) 家族と老人 3) 社会と老人 2 現代社会と老人福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 老人の福祉ニーズの把握方法とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 老人福祉の法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉法 2) 老人保健法 3) その他の関連法規 5 老人に対する福祉サービスの現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅福祉サービス 2) 施設福祉サービス 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉機器 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域と住環境の整備 2) 福祉機器 9 老人に対する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績によって評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編集『高齢者福祉』</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『厚生指針、国民の福祉の動向』の他に、随時、講義中に紹介する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童福祉論		通 期	4 単位	松本 眞一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童ふくしの社会的背景について理解させる。 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。 3 児童福祉ニーズの把握方法について理解させる。 4 児童福祉の法とサービスの体系について理解させる。 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉機器について理解させる。 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と児童 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の成長・発達と児童 2) 家族と児童 3) 社会と児童 2 現代社会と児童福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 児童の福祉ニーズの把握方法とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 児童福祉の法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童福祉法 2) 母子及び寡婦福祉法 3) 母子保健法 4) その他関連法規 5 児童に対する福祉サービスの現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅福祉サービス 2) 施設福祉サービス 6 民間サービスの役割と意義及びその現状 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉機器 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域及び住環境の整備 2) 福祉機器 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 9 児童に対する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例 10 子どもの権利に関する条約 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>松本眞一 著 『児童福祉論』 相川書房（1995年刊）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>福祉士養成講座編集委員会（編） 『社会福祉士養成講座 第4巻 児童福祉論』（中央法規出版）</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
障害者福祉論		通 期	4 単位	北 野 誠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における障害の理念と障害者の実態を理解させるとともに、障害者福祉の社会的背景について理解させる。 2 現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解させる。 3 障害者の福祉ニーズの把握方法について理解させる。 4 障害者福祉の法とサービスの体系について理解させる。 5 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解させる。 6 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。 7 障害者に対する相談援助活動について理解させる。 		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と障害及び障害者 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害の概念 2) 家族と障害者 3) 社会と障害者 2 現代社会と障害者福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉理念の発達 <ol style="list-style-type: none"> ①リハビリテーション ②ノーマライゼーション 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 障害者の福祉ニーズの把握方法とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 把握方法 2) 具体的内容 4 障害者福祉の法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心身障害者対策基本法とリハビリテーション体系 2) 障害者別福祉サービスの体系と内容 <ol style="list-style-type: none"> ①障害児対策 ②身体障害者対策 ③精神薄弱者対策 ④精神障害者対策 	<ol style="list-style-type: none"> 3) 関連法による施策 <ol style="list-style-type: none"> ①保健・医療 ②教育 ③雇用・就労 ④年金、手当及び経済的負担の軽減 ⑤住宅 ⑥生活環境 5 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 民間活動 2) 民間サービス 6 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 7 障害者に対する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例 	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート及び試験</p>				
<p>[教科書]</p> <p>定藤、佐藤、北野 編著『現代の障害者福祉』（有斐閣）</p>				
		<p>[参考文献]</p> <p>定藤、岡本、北野 編著『自立生活の思想と展望』（ミネルヴァ書房） 定藤、中西、北野 編著『障害者の自立生活センター』（朝日新聞厚生文化事業団） 総理府 編『障害者白書』（平成10年版）</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公的扶助論		通 期	4 単位	瀧 澤 仁 唱
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。 		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と公的扶助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公的扶助理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 低所得問題対策の概要 3 生活保護制度のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的 2) 基本原理 3) 保護の原則 4) 保護の種類と内容 5) 保護の機関と実施体制及び財源 6) 保護施設の種類 7) 被保護者の権利及び義務 4 生活保護の最近の動向 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>論述式筆記試験</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉六法 1999（平成11）年版』（新日本法規）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>古賀昭典編『新版現代公的扶助法論』（法律文化社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
家族福祉論		通 期	4 単位	倉石哲也
<p>【講義概要・学習目標】 激動する社会の中で家族は現在どうなろうとしているのか？ また社会は家族に何を期待し、家族の何を支えようとしているのか？ 家族に対する社会的支援は福祉サービスの中で多様化しているが、必ずしも家族をよりよい状態に支援しているとは言い難い。社会的支援の整備・拡充が従来の家族機能を弱めてしまう危険性もはらんでいる。 本講義は家族のあり方と社会が家族を支える方法について学習を深めたいと考えている。家族福祉の考え方や理論を見いだすだけでなく、多様化する福祉サービスの中で、援助者がいかに家族を支えるか、実情に即した家族福祉のあり方を考えていきたい。</p>		<p>【講義計画】 1, 現代の家族多様化時代の理解 少子高齢社会の諸現象、家族を真ぐる諸問題など 2, 福祉の対象としての家族の検討 福祉サービスから見た家族、家族機能の変遷 制度としての家族、機能としての家族、資源としての家族 3, 家族ライフサイクルと福祉サービスの対象理解 4, 家族福祉サービス・システムの現状と課題の検討 北米モデルの参照 5, 家族援助技術の理解 家族ソーシャルワーク、家族療法の事例検討など</p> <p>担当者は臨床ソーシャルワークに関心が高いため、事例検討はその都度取り入れ、家族を援助する視点から家族福祉の考え方を学びたいと考えている。</p>		
<p>【成績評価の方法】 数回のレポート（又は小テスト）で総合評価を行う予定</p>		<p>【参考文献】 野々山久也「家族福祉の視点」ミネルヴァ書房 黒川昭登「家族福祉の理論と方法」誠信書房 岡村重夫・黒川昭登「家族福祉論」ミネルヴァ書房 岡堂哲雄「家族心理学講義」金子書房 遊佐安一郎「家族療法入門」星和書店 岩波書店 シリーズ変貌する家族 1～</p>		
<p>【教科書】 なじ 資料・レジュメを適宜配布予定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
リハビリテーション論		後 期	2 単位	奥 田 邦 晴
<p>【講義概要・学習目標】 障害者が豊かな自立生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への連携が非常に重要であり、そのリハビリテーションは、適切な時期および必要最小限に時間を限定したリハビリテーションでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健・医療・福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。 なお、リハビリテーションチームの一員として、障害についての理解を深めることは非常に大切である。よって、リハビリテーションが大きな意義を持つ代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。</p>		<p>【講義計画】 1.リハビリテーション総論 2.障害と評価 3.各種専門職種 4.疾患・病態からみたリハビリテーションの実際 5.リハビリテーション工学 6.障害者のスポーツ 7.地域ケア 8.その他</p>		
<p>【成績評価の方法】 筆記試験</p>		<p>【参考文献】 「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会 中央法規 「リハビリテーションの臨床とケア」 土肥信之 ライフ・サイエンス・センター 「リハビリテーションの理論と実際」 上田 敏 ミネルヴァ書房 「リハビリテーションを考える」 上田 敏 障害者問題双書 他</p>		
<p>【教科書】 「入門リハビリテーション概論」 中村隆一 医歯薬出版株式会社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人格発達論		後期集中	4 単位	岡 井 哲 明
[講義概要・学習目標] 現代は価値観も多様化し、情報は広範囲かつ加速度的に私たちに迫り、どのように生きるのかを決めるのさえも一人一人にとっては大きな課題となっている。可能性が沢山あるかと思えば全く感じられないというように揺れ幅は大きくなっている。悩みなき時代のようなだが覗けばその悩みは深く大きい。 本講義では、主要なパーソナリティー理論の紹介をしつつ、中でも精神分析理論を中心に人格の発達を概観し、事例をあげながら理解を深め受講者自らが考えていく一助になればと考えている。	[講義計画] 1)人格（パーソナリティー）とは 2)人格理論についての各派の紹介 3)精神分析の基礎理論（フロイト・ユング） 4)乳幼児精神分析とは（アンフロイト・マニー・クライ、D.W.ウィニコット） 5)自我同一性の発達について（E.H.エリクソン）			
[成績評価の方法] 学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。	[参考文献] 随時講義中に紹介する。			
[教科書] 特に指定はしない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉施設処遇論		通期	4単位	(前期)坪 山 孝 (後期)松 端 克 文
[講義概要・学習目標] 社会福祉施設は生活の場を提供しつつ、処遇を行なう。日常的な処遇はQOLの確保や利用者主体、自立支援などの理念に基づいて提供される。良質の処遇を提供するためには職員の援助観の共有が必要であり、職員自身が日常のなかで処遇をどのように提供しているかを自己点検することが必要である。 施設処遇の現状と問題点を考察し、実践現場の処遇を理解する手がかりとなる講義をしたい。	[講義計画] 前期（坪山 孝） 老人関係施設 1 処遇理念 2 処遇の原則 3 処遇計画 4 日常生活管理 5 処遇の質の管理 6 サービス評価基準 後期（松端克文） 障害児・者関係施設 1 施設の制度体系 2 施設処遇の歴史的展開 3 施設処遇の社会化・地域化の現状 4 施設処遇の専門性 5 海外の動向 6 利用者の権利擁護システム			
[成績評価の方法] 授業時の小テスト及び学年末の試験による	[参考文献] 授業時に指示する			
[教科書] とくに使用しない 適宜プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健学		通 期	4 単位	郭 麗 月
【講義概要・学習目標】 精神保健とは、精神的健康の保持と増進を目指した諸活動を指す。それは、精神疾患の予防、治療のみならず、人々が身体面とともに、精神面においても日々、充実しバランスのとれた生活、人生を送るための諸活動を含む、幅広い側面を有する。そのためこの講義では、以下の各点についての理解を深めることを目標とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健についての基本知識について 2 ライフサイクルにおける精神保健について 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について 4 地域精神保健と地域保健について 5 諸外国における精神保健の概要について 6 関連法規および施設について 		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健についての基本知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健の概要 2) 精神保健の意義と課題 2 ライフサイクルにおける精神保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健 2) 学童期における精神保健 3) 思春期における精神保健 4) 青年期における精神保健 5) 成人期における精神保健 6) 老年期における精神保健 3 精神保健における個別課題への取り組み <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者対策 2) 老人性痴呆疾患対策 3) アルコール関連問題対策 4) 薬物乱用防止対策 5) 思春期精神保健対策 6) 地域精神保健対策 7) ターミナルケアと精神保健 4 精神保健活動の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭における精神保健 2) 学校における精神保健 3) 職場における精神保健 4) 地域における精神保健 5 地域精神保健と地域保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域精神保健施策の概要 2) 地域保健施策の概要 3) 関係法規 4) 関連施設 6 諸外国における精神保健 		
【成績評価の方法】 レポート、定期試験の成績で評価する。		【参考文献】 適宜、紹介する。		
【教科書】 「精神保健学」 精神保健福祉士養成セミナー へるす出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
カウンセリング		通 期	4 単位	西 上 裕 司
【講義概要・学習目標】 現代は、多岐にわたる問題を抱えている。人々の生活に支障をきたしている。この講義では、カウンセリングの意義と役割、カウンセリングの歴史、カウンセリングの理論と実践、カウンセリングの倫理について学ぶ。		【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> (前期) 1 カウンセリングとは何か 2 カウンセリングの理論 3 カウンセリングの基本原則 4 カウンセリングの技法 5 カウンセリングの過程 (後期) 6 カウンセラーの専門性 7 カウンセリングをとおしてみえる心の動き 8 カウンセラーの訓練 9 ロールプレイによる体験学習 10 カウンセラーの資格と倫理 		
【成績評価の方法】 前・後期共に、小レポート（中間期）と期末レポートにより総合的に評価する。		【参考文献】 河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房 佐治守夫他著「カウンセリングを学ぶ」東大出版会 松本真一編「現代社会福祉論」ミネルヴァ書房		
【教科書】 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
レクリエーションワーク		通 期	4 単位	石 田 易 司
【講義概要・学習目標】 組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童など福祉対象者へのレクリエーション指導の理論と技術を身につける。施設などの現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外にも出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。	【講義計画】 ①福祉におけるレクリエーションの位置づけ ②組織キャンプの理解 ③キャンプの対象とプログラム ④個々のプログラムの運営 ⑤キャンプ実習 ⑥野外活動の安全 ⑦レクリエーションとセラピー ⑧記録と評価			
【成績評価の方法】 毎日の授業のレポートと、実習への参加、期末のまとめのレポートで評価	【参考文献】 いきいき高齢者キャンプ（朱鷺書房） 高齢者のレクリエーション指導（朝日新聞厚生文化事業団） わしらもいきいき暮らしたい（エルビス社） ハート&セラピー（朝日新聞厚生文化事業団） さかさまの星座（オモドック） キャンプCAMP（ミネルヴァ書房）			
【教科書】 「痴呆性老人とキャンプ」（朱鷺書房） 「障害をもつ人たちのキャンプ」（エルビス社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
福祉事情研究		通 期	4 単位	中 村 永 司
【講義概要・学習目標】 現代社会における福祉問題の発生原因や背景をめぐり、問題の特質や形態を明らかにする。さらには現代社会の仕組みや成り立ち、これらから派生する福祉問題としての授業内問題、高齢者問題、障害者問題やこれら問題を包含する家庭生活問題を分析し、政策課題や介護ケアプラン、ニューゴールドプラン、障害者プランを評価し、さらに社会福祉基礎構造改革や公的介護保険制度、成年後見制度などについて考察する。	【講義計画】 福祉問題の理論的研究や事例分析から実証的研究を行う。さらに福祉問題解決のための方法論を学ぶ。			
【成績評価の方法】 期末試験	【参考文献】			
【教科書】 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉特講（保健・医療・福祉の連携）		通 期	4 単位	中 村 永 司
[講義概要・学習目標] 保健・医療・福祉の連携の必要性の意義を 明らかにし、その分野の特徴や目的を分析し、 連携の策をたてる。さらに保健・医療・福祉の 連携による在宅福祉サービスの体系、内容、方法を さぐり、社会福祉の方向性と課題を探究する	[講義計画] 理論的研究と実証調査結果による実証的研究を 行う。			
[成績評価の方法] 期末試験	[参考文献]			
[教科書] 丸				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	01	通 期	4 単位	加納 真美
[講義概要・学習目標] 1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれ の時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。	[講義計画] 1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法） 2) 家族心理療法 3) 行動療法 他は授業時に提示する。			
[成績評価の方法] 前期末と後期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査 への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に 評価を行う。				
[教科書] 福祉士養成講座編集委員会（編）集『心理学』（中央法規）	[参考文献] 市川伸一（編著）『心理測定法への招待』（サイエンス社） 松原達哉（編著）『最新心理テスト法入門』（日本文化科学社） 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広（著）『発達心理学への招待』（ミネルヴァ書房） 梅本堯夫・大山正（編著）『心理学への招待』（サイエンス社）			

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	島田 文彦	269	11	田村 昶三	271	21	初瀬 慎一	273
02	島田 文彦	269	12	田村 昶三	271	22	初瀬 慎一	273
03	真庭 功	269	13	田村 昶三	271	23	初瀬 慎一	273
04	水口 薫	270	14	田村 昶三	271	24	初瀬 慎一	273
05	毛利進太郎	270	15	藤間 真	272	25	水口 薫	273
06	毛利進太郎	270	16	藤間 真	272	26	水口 薫	273
07	巖 圭介	271	17	永田 淳次	272	27	水口 薫	273
08	巖 圭介	271	18	永田 淳次	272	28	水口 薫	273
09	島田 文彦	269	19	永田 淳次	272	29	水口 薫	273
10	島田 文彦	269	20	永田 淳次	272	30	水口 薫	273

〔注意〕

1. 実習をとまなう授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. どのクラスも今までコンピューターに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としている。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
5. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（2単位）・社会福祉学科自由科目（2単位）に位置づけられている。
6. 募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

98SW生…3月31日（水）～4月1日（木）9：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉4月10日（土）アンデレ館下掲示板 ※4月1日からは、9：10～15：00

7. 申込方法

- ・「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラス3つ以内を記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

〈注〉経営学部生対象のプログラミング論Bと同時に履修することはできないので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	01 02 09 10	9月集中 9月集中 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	島 田 文 彦
【講義概要・学習目標】 <p>近年、コンピュータは「読み（＝情報の取得）」「書き（＝情報の作成）」「そろばん（＝情報の加工）」の為の道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報に関わる際の手段としてより大きな役割を持つようになっている。</p> <p>また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。</p> <p>本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、及びアプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れない他のアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力を付けることを目的とする。</p>	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの概要と操作方法 : 共通した操作方法の理解 ・文書の作成 : ワードプロを用いた文書の作成と修飾 ・情報の加工 : 表計算ソフトを用いた情報の加工 ・コミュニケーション : 電子メールソフトによる情報の伝達 ・情報の取得と検索 : インターネットの利用 <p>以上のテーマについて数時間ずつの講義・実習を行い、最終的にはそれらを統合した演習を行う。</p>			
【成績評価の方法】 <p>講義時の課題、レポート、出席により評価する。</p>	【参考文献】 <p>桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』</p>			
【教科書】 <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	03	9月集中	2単位	真 庭 功
【講義概要・学習目標】 <p>インターネットに象徴されるように、高度なコンピュータ・ネットワーク社会に向けて、コミュニケーションをささえるテクノロジーが革新しています。</p> <p>授業では、コンピュータ活用技法の習得を通して、ハードウェア、ソフトウェア、電子メール、インターネットやマルチメディアなどについて基礎的な知識を概説します。</p> <p>さらに、パソコンを知的作業のための道具として活用し、問題解決能力やプレゼンテーション能力を養成します。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基礎 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロセッサの活用 6) 表計算ソフトの活用 7) データ分析とグラフ表現 8) その他の情報活用技法 			
【成績評価の方法】 <p>出席は3分の2以上。数回のレポートとテストによる総合評価。予習復習などは時間外に行ってください。</p>	【参考文献】 <p>桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』桃山学院大学 必要に応じて指示します。</p>			
【教科書】 <p>必要に応じて指示します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	04	9月集中	2 単位	水 口 薫
【講義概要・学習目標】 近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでの普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基本知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。	【講義計画】 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット、e-mail） 6. コンピュータの活用（プレゼンテーション・ソフト） 7. コンピュータの可能性について 9月集中講義であるため、講義実習が連日になる。授業を効率よく進めるため、前もって、コンピュータに接し、キーボード操作の練習をしておくこと。			
【成績評価の方法】 講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	【参考文献】 「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編）			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	05	9月集中	2 単位	毛利進太郎
	06	9月集中	2 単位	
【講義概要・学習目標】 近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。 そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として使い、またインターネット上の様々な情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。	【講義計画】 以下の事柄について講義を行う予定である。 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows95の操作 3. ワープロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール、WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 各項目について数回の演習が主体とした講義を行う			
【成績評価の方法】 随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	07	前 期	2 単位	巖 圭 介
	08	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] コンピュータを使わずに仕事をするのがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じと言っても過言ではない。この講義では、コンピュータに触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけでなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要がある。半期の授業が終わった時、「コンピュータはいちおう一通りのことはできます。」と言えるようになっていてもらいたい。	[講義計画] 下記の項目について実習を行う。 ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール ・ワードプロセッサ ・表計算 ・インターネット			
[成績評価の方法] 出席状況と実習の提出物による	[参考文献] とくになし			
[教科書] 桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	11	前 期	2 単位	田 村 昶 三
	12	後 期	2 単位	
	13	前 期	2 単位	
	14	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標] パソコンを使ったインターネット（電子メールとWWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強するパソコン入門者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。パソコンを道具として使いきるためには、避けて通れない「壁」があります。その壁を越えるための授業です。 情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(1)情報保管蓄積-(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)-(3)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンをパソコン実習を通して基礎から勉強を始めます。 ビジネスで使われる文書・書類を中心に日本商工会議所検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にする。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。サポートしますので積極的に自習をしてください。 初心者を対象にパソコン基本操作から始めます。パソコンの基礎の基礎といわれる所を十分に身につけ、あとは自分で努力することにより身につきます。そのknow-howも勉強します。	[講義計画] 1. パソコンについて 2. パソコンの基本操作（キータッチ） 3. ワープロソフト（文字入力、表の作り方、グラフ作成） 4. 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） 5. パソコン通信の活用（仕組み、電子メール、電子会議） 6. インターネットの利用（システム、WWW、電子メール） 7. その他（情報保管蓄積、情報検索） ワープロ（一太郎とWORD）を使い切る。入力のスピードをペンで書くより速く入力できるようになる。 表計算（EXCEL）の基本的な使い方がわかり基礎的な使い方はこなせる。 電子メールをつかってコミュニケーションができる。 インターネットのWWWで情報の検索ができる。 日本商工会議所主催の「日本語文書処理技能検定試験」の合格を目指す。			
[成績評価の方法] 出席が3分の2以上で、レポート提出、理解度テスト、学期末試験により評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター（編集）『ユーザーズガイド』			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	15	前期	2単位	藤間 真
	16	後期	2単位	
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。</p> <p>本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。</p> <p>本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピューターの経験を持つものは遠慮されたい。</p> <p>また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないで単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>下記の項目について説明した上で、実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンについて ・タッチメソッドの修得 ・電子メール ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・WWWブラウザソフト 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席状況、実習の成果物の提出（数回を予定している）及び学期末の試験により評価する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>進行状態に応じて指示する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>桃山学院大学計算機センター編 ユーザーズガイド</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	17	前期	2単位	永田 淳次
	18	後期	2単位	
	19	前期	2単位	
	20	後期	2単位	
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>コンピュータはその名前が示す通り、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特徴を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義は、初心者がコンピュータの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの概要と基本的な操作 ・電子メールによるコミュニケーション ・日本語文書の作成 ・プレゼンテーション ・インターネットの基礎知識 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席重視。提出物の総合評価。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>桃山学院大学計算機センター（編）『ユーザーズガイド』</p>			
<p>〔教科書〕</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	21	前 期	2単位	初 瀬 慎 一
	22	後 期	2単位	
	23	前 期	2単位	
	24	後 期	2単位	
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。</p> <p>授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。 (経営学部生対象のプログラミング論 B と同時に履修することはできないので注意すること)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン 3. インターネット 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の利用 6. その他の情報活用法 			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。	桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』			
【教科書】				
開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	25	前 期	} 2単位	水 口 薫
	26	後 期		
	27	前 期		
	28	後 期		
	29	前 期		
	30	後 期		
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスで普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基本知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー(操作だけでなくどのように活用するかという能力)を学習する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成(文字変換機能、ワープロソフト) 4. データの概念と処理(表計算、データベースソフト) 5. ネットワークと情報検索(インターネット、e-mail) 6. コンピュータの活用(プレゼンテーション・ソフト) 7. コンピュータの可能性について 			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター(編)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	01	通 期	4 単位	面 地 豊
<p>【講義概要・学習目標】 あるものの性格や内容を熟知する重要な方法として、歴史的方法がある。経営学という学問の性格や内容を熟知する方法として、本年度は、歴史的方法を用いる。 日本で経営学と称せられている学問は、アメリカ経営学とドイツ経営学の2大潮流を合わせて認識したものである。講義はアメリカ経営学とドイツ経営学の歴史的發展を通して、経営学の性格や内容を概観する。その上で、日本の経営についても言及する。</p>	<p>【講義計画】 講義は次の項目にしたがって行なう。 1. 資本主義経済の発展と経営学の誕生 2. アメリカ経営学の考へ方 3. ドイツ経営学の考へ方 4. 経済社会学について 5. 日本の経営学論について</p>			
<p>【成績評価の方法】 期末試験による。</p>	<p>【参考文献】 講義はノートを中心に行なうので、参考文献はその都度指示する。経営学全般については、参考文献があまりないのびテキストを用いる。</p>			
<p>【教科書】 面地豊 『両大経営社会学の発展』十倉書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	02	通 期	4 単位	片 岡 信 之
	03	通 期	4 単位	
<p>【講義概要・学習目標】 この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。 したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。 経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話したいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。</p>	<p>【講義計画】 テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。 1. 企業経営の歴史（アメリカ、日本） 2. 企業経営の構造（事業構造、企業構造、経営構造、対境構造） 3. 経営管理（管理の基本構造、生産管理、マーケティング、財務管理、労務管理、労使関係管理、インセンティブ・システム、リーダーシップ、情報システム） 4. 経営発展（経営環境と経営戦略、経営革新、企業文化、グローバル経営） 5. 日本の経営の行方 6. 経営学理論の発展史（アメリカ、日本）</p>			
<p>【成績評価の方法】 講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、講義中の小テスト、学年末テスト結果などによる総合評価とします。</p>	<p>【参考文献】 ●特に指定はしませんが、ハンディな経営学辞典を手元に置いておくことを奨めます。平日頃から隙間時間を利用して、ランダムに読んで下さい。 1. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館 2. 二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社 など ●経営学は様々な知識の総合という特徴があります。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）、『イミダス』（集英社）、『智恵蔵』（朝日新聞社）のうちいずれかを手元に置いて、ランダムに読んで雑学をしてみてください。（3つとも各年版が出ています）。</p>			
<p>【教科書】 片岡信之編著『要説 経営学』文真堂、1994初版、1997三刷</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	04	通 期	4単位	谷 口 照 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学は、主として企業の構造と行動を歴史社会的環境の下で研究する。従って、経営学は時代と共にあり、常に「現代経営学」として問題にされる。そこにおいては、「現代の諸問題」に関する一定の理解が必要とされる。経営学を取り巻く「現代の諸問題」の中でとりわけ重要なものは、「環境問題」、「情報化」、「グローバル化」であろう。</p> <p>本講義では、この様な問題が企業の経営にどのような変化を迫り、どのような意味を持っているかに留意しながら、以下のテーマについて講義する。1. 経営学の歴史と研究動向、2. 企業経営の構造、3. 企業の経営管理、4. 企業経営の発展、5. 企業、非営利組織・非政府組織（NOP・NGO）、政治・行政のネットワーク、6. 現代経営学の課題と将来への展望</p> <p>学生諸君は、各テーマの要点を理解すると共に、「現代の諸課題」と「企業経営」が密接に関連していることに留意し、「現代経営学の課題」を明確に意識しなければならない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 1. 経営学の歴史と研究動向（テキスト1-3章、24-26章） 2. 企業経営の構造（テキスト4章-8章） 3. -1 企業の経営管理（テキスト9章）</p> <p><後期> 3. -2 企業の経営管理（テキスト10章-18章） 4. 企業経営の発展（テキスト19章-23章、8章） 5. 企業、非営利組織・非政府組織、政治・行政のネットワーク 6. 現代経営学の課題と将来への展望</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期の2回の試験と、不定期小テスト、レポートの総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>片岡信之編著『要説 経営学』文眞堂、1994年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	05	通 期	4単位	野 田 俊 範
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。と同時に、本学経営学部における企業・経営コースへの導入科目としての性格をも併せもっている。したがって、本講義では経営学の学問的性格を明らかにするとともに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することとした。</p> <p>本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。</p> <p>①経営学の全体像を体系的に把握すること。 ②企業・経営の基本的原理を理解すること。 ③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 経営学とは何か 1. 経営学の意義 2. 経営学の成立 3. 社会科学としての経営学</p> <p>II. 企業とは何か 1. 企業の基本的特質 2. 企業の基本的形態 3. 株式会社の特質 4. 企業を支配するもの</p> <p>III. 経営管理の基本問題 1. 経営管理の意義 2. 経営管理思想の成立 3. 経営組織の論理 4. 経営戦略の論理</p> <p>IV. 現代社会と企業経営 1. 現代社会における企業の意義と課題 2. 経営学の展望</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末および学年末の試験によって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>橘博・大橋昭一編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房。 中村瑞穂・丸山恵也・権泰吉編著『新版 現代の企業経営—理論と実態』ミネルヴァ書房。 大橋昭一『経営学理論』中央経済社。 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	ク ラ ス	講義区分	単位数	担 当 者
情報システム概論 (旧情報処理概論)	02	通 期	4 単位	明石 吉三 明石 吉三 井上 義祐 井上 義祐 牧野 丹奈子 牧野 丹奈子
	03	通 期	4 単位	
	04	通 期	4 単位	
	05	通 期	4 単位	
	06	通 期	4 単位	
	07	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
私たちは、コンピュータと通信の利用なしでは過ごせない情報化社会のなかに生きている。この講義では、急速に進化する情報化社会で活躍するために、常識として必要な情報システムの基礎知識を習得する。ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア開発手法、データベース、通信技術についてその基本を学ぶことを目標とする。	【前期】 オリエンテーション コンピュータの歴史・情報表現 ハードウェア構成 コンピュータの処理方式・信頼性 【後期】 ソフトウェア ソフトウェア開発 ファイルとデータベース 通信ネットワーク 情報化社会の光と陰			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
前期試験と後期試験の成績に加え、平常点を総合評価する。	適宜指示する。			
[教科書]				
井上義祐・小池俊隆編『経営情報処理概論』同文館				

科 目 名	ク ラ ス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	01	通 期	4 単位	河野 勉
	02	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。</p> <p>その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、この種のディスクロージャー（情報公開）が社会的に必要とされている。決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。</p> <p>更に企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。</p>	＜前期＞ 1. 複式簿記の原理…(1)簿記の意義と目的 (2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益） (3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目) 2. 仕訳帳と元帳… (1)仕訳と仕訳帳 (2)転記と元帳 3. 試算表…(1)試算表の意味と種類 (2)試算表の貸借合計不一致 4. 決算（その1）… (1)決算の意味と手続 (2)帳簿決算(英米式・大陸式) ＜後期＞ 5. 取引の記帳…(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳 商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形 取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5) 有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引 6. 決算（その2）…(1)決算整理の意味(2)棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評 価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損 (6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを2回実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。	検定簿記講義3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社 検定簿記ワークブック3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社			
[教科書]				
中田信正・徐 竜 達・堀 友章・全 在紋（共著） 「現代簿記論」（中央経済社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	03	通 期	4 単位	清水 信匡
<p>[講義概要]</p> <p>初めて簿記・会計を学ぶ学生を対象として複式簿記に基づいた商業簿記の記帳手続きを説明することが本講義の主内容である。その過程で簿記・会計が現代の社会でどのような役立ちを担っているのかも説明する。さらに、会計学にはどのような領域があり、どのようなことが問題になっているのかも説明する。なお、随時記帳練習を行う。</p> <p>[学習目標]</p> <p>①複式簿記の基礎概念の理解 (資産・負債・資本・収益・費用・利益概念の理解)</p> <p>②複式簿記の基本的記帳方法の理解</p> <p>③複式簿記の理解を通じて会計学のイメージをつかむ</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <p>1 複式簿記の基礎概念 2 貸借対照表 3 損益計算書 4 仕訳 5 転記 6 試算表 7 6桁精算表 8 決算 9 複式簿記の役立ち</p> <p>後期</p> <p>1 現金・預金 2 三分法 3 仕入帳・売上帳・商品有高帳 4 有価証券 5 貸倒償却 6 減価償却 7 手形 8 費用・収益の繰延の見越 9 8桁精算表 10 決算 11 財務諸表の読み方</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の試験で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田・徐・堀・全著『現代簿記論』中央経済社。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新井清光監修『日商簿記検定 段階式ワークブック』税務経理協会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	04	通 期	4 単位	リョウダ ユウリ 徐 龍 達
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>商業簿記は「企業の鏡」である。企業の経営成績と財政状態が鏡にうつしだされる。その商業簿記が、どのようにして生成し発展してきたのかを歴史的発生的にとらえ、今日の複式簿記の計算構造を理解するようにしたい。中世イタリアにおける商業の興隆と商業簿記の生成発展、取引の意味と貸借複記（仕訳）、勘定記入、試算表の作成、損益計算書、貸借対照表、精算表の作成と簡単な簿記理論も学ぶことにする。</p> <p>簿記は、自動車の運転免許書の取得と同じように、さぼらずに出席することが必要である。欠席しがちな学生は単位の取得が難しい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) ① 簿記計算思考の生成発展 ② ヨーロッパにおける複式簿記に成立と発展 ③ 複式簿記の計算原理 ④ 複式簿記の計算原理</p> <p>(後期) ⑤ 勘定科目概説 ⑥ 現金・預金 ⑦ 売掛金・買掛金 ⑧ 受取手形・支払手形 ⑨ 商品と評価 ⑩ 決算と帳簿組織</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期テストと年度末テストを総合して評価するが、日本商工会議所簿記検定3級以上に合格した者は、合格証書のコピー提出により、評価を1ランク引き上げる。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正・徐 龍 達・堀 友章・全 在紋(共著)「現代簿記論」(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	05	通 期	4 単位	フヨ 全 シヰン 在 紋
	06	通 期	4 単位	
【講義概要・学習目標】 (講義概要) リトルトンという会計学者は、「会計」を「企業の言語」ととらえた。日本人が日本語で話し、アメリカ人が英語で話すように、「企業人」は会計で話しをすると見たのである。この伝で言えば、「簿記」は企業の言語(会計)の「文法」だと言えよう。英語の文法が面白くないように、簿記の学習もまた、学生諸君にはとかく敬遠されがちである。しかし、将来企業人として指導的立場に立たねばならない経営学部卒業生には、簿記の習熟は避けて通れない関所といつてよい。 (学習目標) 複式簿記の計算原理・計算構造について理解する。 ① 財務諸表を構成する勘定諸科目の会計的意義を理解する。 ② 複式簿記システムでの会計的取引の記帳方法を習得する。 ③ 決算手続きを理解し、損益計算書・貸借対照表の作り方を学ぶ。	【講義計画】 ① オリエンテーション (2回) ② 複式簿記の計算原理 (3回) ③ 複式簿記の計算構造 (4回) ④ 複式簿記の記帳練習 (3回) ⑤ 現金・当座預金の処理 (2回) ⑥ 売上・仕入の処理 (3回) ⑦ 繰越商品・売上原価の算定 (2回) ⑧ その他の勘定の処理 (1回) ⑨ 決算整理事項の処理 (3回) ⑩ 精算表・財務諸表の作成 (2回)			
【成績評価の方法】 授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験(前期末試験・学年末試験各1回)の総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験3級以上の合格者には、別途加点評価する。	【参考文献】 井上達雄・新井清光(共著)『検定簿記ワークブック(3級・商業簿記)』 中央経済社			
【教科書】 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著)『現代簿記論』 中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	07	通 期	4 単位	ハク 朴 フヨ 大 栄
	08	通 期	4 単位	
【講義概要・学習目標】 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではない。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つである。簿記は決して難解な科目ではないが、これをマスターするためには、不断の記帳練習が必要である。したがって、本試験以外に毎回できるだけ数多くの練習問題をレポート提出という方法で行わせる予定である。 本講義は、個人商店の決算諸表の作成までをマスターさせることを目標としている。ただ、大学に学ぶ以上、その背後に流れる思考の理解も目標としたい。	【講義計画】 4月 複式簿記の意義と原理 4-7月 複式簿記の計算構造(取引の意義と種類、勘定と仕訳、仕訳帳と元帳、試算表、精算表、決算と財務諸表) 9-11月 個別会計処理(現金、当座預金、商品売買と売掛金・買掛金、受取手形と支払手形、商品、その他の勘定) 12-1月 決算			
【成績評価の方法】 前期・後期の筆記試験の成績にレポートの提出状況と出席状況を加味して評価する。	【参考文献】 必要があれば、適宜指示する。			
【教科書】 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋共著『現代簿記論』 中央経済社 新井清光・渡部裕亘編著『新検定簿記ワークブック 3級』 中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	01	通 期	4単位	谷 口 照 三
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、経営学の入門を勉強していることを前提に、これからの、つまり21世紀の経営学は何をどのように話題としていかなければならないかについて、みんなで考え、議論していきたいと思ひます。と同時に、「みんなで考え、議論していく」「やり方」をも確実に身につけていくことを目標にしたいと思ひます。</p> <p>この演習は、毎回、演習生の協働によって成り立ちます。したがって、欠席や遅刻はない方が良く決まっています。厳禁とまでは言いませんが、限りなくそれに近いニュアンスで受け止めて下さい。毎回何らかの「貢献」をするつもりで出席して下さい。</p> <p>この演習が専門演習へのプラットフォームになればと思ひています。あるいは、皆さんの協働意欲が高揚すれば、それ以上のことが出来るかもしれせん。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 1. 大学生に必要な基礎的な学習テクニック（レポート、レジュメの作成や報告の仕方など）を修得する。テキスト①を使用。 2. 今起こりつつある社会変動と21世紀に期待される企業の責任と役割についての概要を学ぶ。テキスト②と配付資料を使用。 3. 図書館での情報検索実習と計算機センターでの電気計算機実習を行う。</p> <p><後期> 1. ケース・メソッド（事例を用いた意思決定訓練）、ワーク・ショップ（グループによる課題研究）を実施する。テキスト①②および配付資料を使用。 2. 適当な時期に履修指導を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点と出席内容点50点、課題提出点とその内容点50点の合計点で評価する。なお、課題には、適時課すもの（10数回）と最後に提出してもらう小論文（1万字前後）がある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>① チャールズ・ハンディ著、埴岡健一訳『もっといい会社、もっといい人生——新しい資本主義社会のかたち——』河出書房新社、1998年。 ② ジョエル・マコワー（著）『社会貢献型経営ノすすめ』（シュプリンガー・フェアラーク東京） ③ 八幡紘声史著『ミーティング・マネジメント——効果的会議の効率的実践——』生産性出版、1998年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	02 03	通 期 通 期	4単位 4単位	今 木 秀 和
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきました。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」</p> <p>—— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より）</p> <p>「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」</p> <p>—— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エピック1997年より）</p> <p>みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？</p> <p>この基礎演習では、次のことを狙っています。</p> <p>①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！</p>	<p>[演習計画]</p> <p>前期 日本の企業が変革を迫られている。既存の企業がどのように変革を進めたらよいかを考える。</p> <p>後期 経済の活性化を実現するためにはベンチャーを育成し、企業家精神を発揮することが重要である。ベンチャーについて学ぶ。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への参加の実績によって評価する。具体的にはレポートの提出、出席、授業中の質疑応答などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>奥村昭博（著）『企業イノベーションへの挑戦』（日本経済新聞社） 吉田和男（著）『ベンチャー・ビジネスは日本の救世主だ』（東洋経済新報社） 松田修一（著）『ベンチャー企業』（日経文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加護野忠男（著）『企業のパラダイム変革』（講談社現代新書） 清成忠男（著）『ベンチャー・中小企業優位の時代』（東洋経済新報社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	04 05	通 期 通 期	4 単位 4 単位	岡 崎 守 男
【演習概要・学習目標】 「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」 —— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より） 「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」 —— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より） みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？ この基礎演習では、次のことを狙っています。 ①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！	【演習計画】 <前期> テキストを使った勉強については、どこまで進むかといった計画はもうけない。こちらから脱線するし、諸君のほうから大いに質問して脱線させてくられてもよい。ただ諸君にとっての初めての大学生活でもあるので、できるかぎりそのガイダンスにも時間をとりたい。また、前期中にパソコンの実習を行う予定である。 <後期> 上述のことに加えて、2、3回くらいはチャップリンの「モダンタイムズ」など映画、ドキュメントのビデオなどの鑑賞を行う。そして、その内容の紹介、感想などを盛ったレポートを提出してもらおう。			
【成績評価の方法】 出席は義務づける。従って欠席や遅刻がかさむと除籍になる。成績の評価は、出席を前提として、テストに加え、こちらから求めた課題（テキストのレジュメやレポートの作成など）にどれだけ応えているか、その内容はどうかを総合的に判断して行う。	【参考文献】 朝日新聞社（編）『カイシャ天国』（朝日文庫）			
【教科書】 下川浩一（著）『日本の企業発展史』（講談社現代新書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	06	通 期	4 単位	鬼 塚 光 政
【講義概要・学習目標】 「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」 —— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より） 「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」 —— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より） みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？ この基礎演習では、次のことを狙っています。 ①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！	【講義計画】 <前期> 1. 経営学部の専門科目の概要と体系および履修要領の説明 2. 図書館と計算機センターの利用方法の説明 3. 経営学の主たる研究対象である企業が現代社会において占めている位置や影響力や直面している課題について考察しながら、経営学を学習する意味を感得する。 <後期> 4. 企業の仕組み（「企業形態」と運営（「経営管理」）に関する問題を理解するための考え方や基礎的な概念を習得して経営学の専門的な学習に備える。 *1～2回ゲスト講師を招き、経営国際化や環境問題等現代企業が直面している重要な問題について討議することも考えている。			
【成績評価の方法】 出席、レポート、授業中の発表・発言、テストの成績等を総合的に勘案する。	【参考文献】 内橋克人・奥村宏・佐高信編、『企業社会のゆくえ』、岩波書店 内橋克人・奥村宏・佐高信編、『日本型経営と国際社会』、岩波書店 片岡信之編著、『要説 経営学』、文真堂 赤岡功 編、『現代経営学を学ぶ』、世界思想社 橋本／大橋昭一編著、『経営学へのアプローチ』、ミネルバ書房			
【教科書】 追って指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	07	通 期	4単位	面 地 豊
	08	通 期	4単位	
【演習概要・学習目標】 「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」 —— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より） 「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはつきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」 —— 和氣邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より） みなさん 経営学部に来たけれど「経営=マネジメント」とは何か知っていますか？ この基礎演習では、次のことを狙っています。 ①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営=マネジメント」！	【演習計画】 テキストの各章の内容と、演習生に発表してもらい、発表内容について議論をす。 また、テキストは、正統的な経済理論（新古典派経済論）を中心に展開されているので、私からは、経済理論の影響を加之していく。			
【成績評価の方法】 レポートによる。	【参考文献】 その都度指示あり。			
【教科書】 宇沢弘文著『自働耳の社会的費用』岩波新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	09	通 期	4単位	片 岡 信 之
	10	通 期	4単位	
【演習概要・学習目標】 「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」 —— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より） 「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはつきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」 —— 和氣邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より） みなさん 経営学部に来たけれど「経営=マネジメント」とは何か知っていますか？ この基礎演習では、次のことを狙っています。 ①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営=マネジメント」！	【演習計画】 テキストは経営学に関係のある項目を123項目に絞って優しく解説してある。時間の関係上、このすべての項目を取り上げるわけにはいかないが、[演習概要・学習目標]の①②③④に掲げてある基本的なことだけは身に付くようにしたい。 運営方法は、順次テキストから重要項目を適宜ピックアップして輪読するというやり方をとることとする。 輪読にあたっては、α発表者と、β質問・問題提起者と、γ司会者とを毎回あらかじめ決めておいて、その人達を中心に運営していきたい。 発表者と質問・問題提起者、司会者等は、自分が分担する部分については責任を持って前もってテキスト以外の文献にもあたって勉強しておくこと。特に発表者と質問・問題提起者は必ず自分の発表用のレジュメを用意して、ゼミ生全員に配布したのちに発表（プレゼンテーション）することを義務づける。			
【成績評価の方法】 基礎演習は出席して発言することが何よりも大切です。したがって、出席状況、授業への貢献度などの積極性で評価します。つまり、平常点評価によることとし、テストによる評価ではありません。	【参考文献】 授業時に、必要に応じて指示する。			
【教科書】 ベイシック経営学編集委員会編『ベイシック経営学Q&A』ミネルヴァ書房、1998年11月刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	11 14	通 期 通 期	4単位 4単位	小 林 哲 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」</p> <p>—— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より）</p> <p>「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」</p> <p>—— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より）</p> <p>みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？</p> <p>この基礎演習では、次のことを狙っています。</p> <p>①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！</p>	<p>[講義計画]</p> <p>主として、経営学のケース研究の中から、優れたものをピックアップして、それについて討論を行います。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>普段の出席状況と勉学態度</p>	<p>[参考文献]</p> <p>Norman, R. and R. Ramirez, <i>Designing Interactive Strategy: From Value Chain to Value Constellation</i>, Wiley & Sons, 1994</p>			
<p>[教科書]</p> <p>その都度配布します。 参考文献から一部を使うこともあります。</p>	<p>Zell, D., <i>Changing by Design: Organizational Innovation at Hewlett-Packard</i>, ILR Press, 1997</p> <p>いずれも訳文があり、原文と共に授業中に配布します (購入不要)</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	12	通 期	4単位	野 田 俊 範
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性分はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」</p> <p>—— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より）</p> <p>「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」</p> <p>—— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より）</p> <p>みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？</p> <p>この基礎演習では、次のことを狙っています。</p> <p>①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！</p>	<p>[演習計画]</p> <p>①教科書を用いて現代の社会について考える。 ②新聞・雑誌などの資料を用いて現代の企業経営について考える。 以上の課題に関して、学生による報告・質疑・討論を中心にして進めてゆく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席状況②報告および質疑・討論への参加状況③レポート以上をもとにして、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>適宜指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	13	通 期	4 単位	長 谷 川 彰
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」</p> <p>—— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より）</p> <p>「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」</p> <p>—— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より）</p> <p>みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？</p> <p>この基礎演習では、次のことを狙っています。</p> <p>①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！</p>	<p>[講義計画]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期テストおよび学年末テストの結果による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	15	通 期	4 単位	清 水 信 匡
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「基本を身につけないとヒラメキやツキによる我流では、当てても一発屋に終わる。私は、—— 性はズボラだけど、経営に関しては基礎を固めて、手堅くやってきた。—— 当社の経営の三本柱は、①「開発」、②「販売」、③「店舗」。」</p> <p>—— 原野直也著（ブリクラを作ったアトラス社社長、『ブリクラ仕掛人の素顔』メタモル出版1997年より）</p> <p>「優れた民間支援組織は、必ず理念や哲学がしっかりしており、スタッフにも徹底しています。リーダーは自分のマネジメントの哲学をかなりはっきり打ち出している。いいNGOには必ずいいリーダーがいる。リーダーがいなくても、いいグループがいる。」</p> <p>—— 和気邦夫（ユニセフ駐日代表事務所長、毎日新聞社編『国際ボランティア講座』エビック1997年より）</p> <p>みなさん 経営学部に来たけれど「経営＝マネジメント」とは何か知っていますか？</p> <p>この基礎演習では、次のことを狙っています。</p> <p>①「経営」への関心を深める。 ②「経営」を研究するための基礎学力をつける。 ③「経営」を研究するための大学の利用方法を学ぶ。 ④経営学部のカリキュラム体系を理解する。 おもしろいですよ！「経営＝マネジメント」！</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論文とは何かを『論文の書き方』を読みながら理解する。 2 グループごとに適当なテーマを設定し、それについてまとめる。 3 2においてまとめたことを発表し、討論する。 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『経営学入門』の第1部と第2部を読むことで経営の基本を理解する。 2 グループごとに興味のある経営問題を調べて発表する。 3 前期で理解した論文の書き方を応用し、経営に関連した論文をまとめる。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>夏休みと冬休みの課題を主たる評価対象とする。なお、出席状況、授業における発言等も評価に加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫604）講談社1983年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社1977年 伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』 日本経済新聞社1993年</p>				

「経営学部文献講読」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	井上 義祐	288	07	柴 健次	291
02	小林 哲夫	288	08	津戸 正廣	291
03	太田 一朗	289	09 10	本多 毅	292
04	太田 雅晴	289	11	矢倉 伸太郎	293
05	村田 晴夫	290	12	山本 浩二	293
06	亀田 速穂	290	13	梁 官洙	294

〔注意〕

- (1) セミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、経営学部教育科目の学部共通選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。

〈日時〉 3月23日（火） 9：20～15：00

〈申込受付〉 学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	01	通 期	4単位	井 上 義 祐
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>この講義では、左記学習目標を達成するために、教科書や文献を私と受講学生全員が一体となって、調べ、人前で発表し、意見をかわし、書きものにまとめるなど、全員が楽しみながら参画することを狙って次ようなことを試みる。</p> <p>(1) 題材としては、世界的に著名なDruckerの著書を用い、その四分野それぞれについて、諸君が21世紀の社会人として活躍するうえで興味深く比較的分かり易い幾つかずつの章を選び、共に読み議論をしたい。また、折に触れ、新聞や雑誌の切り抜きなども用いる。</p> <p>(2) 諸君が実社会で使うことになる、情報化時代にふさわしい発表手段として、諸君自身によるパソコンのプレゼンテーションソフト(PowerPoint)を用いる準備やそれを用いた発表なども試みる。その使用法は、初めの時期に実習するので、パソコンの未経験者でも、やる気さえあれば心配ない。また、何回かのレポートでは、ワープロを用いて文章をまとめる訓練をする。</p> <p>以上のように、なるべく楽しい雰囲気の中で学べるようにしたいが、そのためには必ず毎回出席すること、皆の予習にもとづく議論への参画・協力が不可欠だ。学生生活の中で、積極的に何か思い出になるようなことを学び取りたいという者なら誰でも歓迎する。ただし、選んだ人は最後まで頑張って欲しい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義での議論や発表などの参画度合い、課題やレポートなどの総合評価とする。毎回出席を前提とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>P. F. ドラッカー「未来への決断」ダイヤモンド社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	02	通 期	4単位	小 林 哲 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>原則として教科書を輪読し、必要に応じて、輪読する資料などを追加します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>普段の出席状況、勉学態度及び期末テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>MIT産業生産性調査委員会訳『Made in America:アメリカ再生のための米日欧産業比較』(草思社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加登 豊『原価企画:戦略的コスト・マネジメント』(日本経済新聞社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	03	通 期	4 単位	太 田 一 朗
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p> <p>ビジネスの国際展開について学ぶ。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 国際マーケティングを中心に市場開発、商品開発、価格戦略などについて読む。</p> <p><後期> 海外の日本企業及び日本国内の外資系企業の実態と動向について読む</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>クラス出席とクラスでの発表による。補完的にレポートを求める事もある。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>適宜指示、または配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	04	通 期	4 単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>各人の分担箇所を指定します。報告当日までにそれを読み、そして報告資料に概要をまとめます。報告当日では、その資料を全員に配布し、発表するとともに、発表後、全員で討論します。 できるのであれば、オーバーヘッドプロジェクターやコンピュータを用いた発表も体験してみたいと思います。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、発表態度、レポートの結果を総合して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義開始時および必要時に指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義開始時および必要時に指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	05	通期	4単位	村田晴夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>予め、テキストをよく読んできて教室で発表してもらおうが、発表に当たったものだけではなく、参加者全員がよく読んでくることが大切である。自分で調べ、考え、意見を形成し、発言する力を身につけるようにしよう。その力は、現代の経営の諸問題を「読む」力となり、問題の所在とその本質を見通すような、生きものになるようにしなければならない。そのため、折々の新聞記事を読むことなどを取り入れて授業を進める。教科書に挙げた本には、やや難しい内容のものも含まれているであろう。しかし、難しいところは一緒に調べたり、他の参考文献を読んでみたり、また考えたりしながら、みんなで一緒に進みたい。いろいろな意見に接すること、それらを理解すること、それらを吟味すること、そして自分の意見を形成すること、それを他の人に伝えること。そうすることによって有効な討論が起こるであろう。それを通してさらに自分が成長するであろう。新しい発見があるであろう。そこに学ぶことの、そして考えることの楽しさがあり、素晴らしいであろう。この授業ではそういう力を養いたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの内容と、授業中のそれぞれの議論を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>そのつど指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>P. F. ドラッカー『すでに起こった未来』(ダイヤモンド社) 経営学史学会編『経営学の巨人』(文真堂)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	06	通期	4単位	亀田速穂
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎回の授業で、会社の実例(ケース)を取り上げます。さまざまな会社が、以下のテーマに対して、なぜ、どのように取り組んだのか、そこからどのような一般的な示唆が得られるかを理解します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スカイマークエアラインズ社…企業を起こす 2. ロックフェラーとスタンダード石油…現代企業の誕生 3. フォードとGM…環境・戦略・組織 4. ヤマト運輸の宅急便事業…新しい事業の創造 5. マクドナルドとモスバーガー…いかに競争するか 6. 東芝の選択経営…事業の再構成と資源配分 7. ソニーのコロンビア映画買収…M&Aと外部資源の利用 8. ABBの国際戦略…いかに国際化するか 9. トヨタの生産システム…日本の生産システム 10. 日立製作所…日本の経営とは何だったのか 11. シャープの製品開発…企業の知識体系 12. 花王の組織変革…ネットワーク型組織 13. アサヒビールの組織活性化…企業のカルチャーを変える 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、討論での発言頻度、発言内容、レポートによって総合評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>各テーマに関連する文献は、左記の教科書に記載されています。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	07	通 期	4単位	柴 健 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p> <p>本講義では、経済、経営、会計など社会科学の領域に関する平易な書物も多く読み、物の見方、考え方を身につける。</p> <p>個人やグループによる報告とそれに対する質疑を通して、他人の主張を理解し、自己の意見を形成するための訓練を行う。</p> <p>「読み・書き・そろばん」の現代版は「英語、パソコン、簿記」であろうか。これらの習得についても動機付けしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 グループづくり 3 書物の多読 4 新聞の切り抜き 5 その他資料の収集 6 個人報告またはグループ報告 7 ディベート 8 その他 <p>教科書を題材にしながら、上記作業を織り込んで、学生の自主的参加型授業を実現する。気がついてみると、多くのことを学んだなといえる実感をもってもらいたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的に平常点で評価する。欠席は相当の減点をするので要注意。各種の課題を与える。それぞれの課題に対する取り組みを評価する。出席しても積極的な取り組みがなければ「不合格」もありうる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>稲盛和夫『稲盛和夫の実学—経営と会計』日本経済新聞社、1998年。 その他、必要に応じて指定する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
経営学部文献講読	08	通期	4単位	津戸正廣
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>経営学の文献を読みこなすためには、読んだ内容を理解して、まとめることが肝要です。つまり、読む能力は、まとめる能力、書く能力と密接に関連しています。従って、授業では、伝えたい内容をどのように整理し分類し構成するかということから始めます。現代では、この整理・分類・記述という作業はコンピュータを利用してなされることが多いので、授業でも、できるだけコンピュータを活用します。</p> <p>4月は、なによりもまず、経営学的関心とテーマの発見が重要であることを確認します。機械は、テーマを発見してくれません。</p> <p>5月は、コンピュータを利用する作法を身につけ、ワープロ・ソフトの基本を学びます。電子メールに関する注意もします。</p> <p>6月および7月は、議論を体系的・構造的に展開するための技法を勉強します。「アウトライン(リンク)」機能および「段落書式」機能を最大限に活用します。夏休みには、各自興味のあるテーマを見つけて、レポートを作成してもらいます。</p> <p>9月および10月は、受講生が作成したレポートの長所を紹介しながら、構造的な文章を作成する際のポイントについて議論します。他人の技術を参考にすることも重要です。</p> <p>11月から1月までは、インターネットを通じた検索の仕方とHTML言語の特徴を学び、簡単なホームページが作成できるようにします。</p> <p>以上の作業は、慣れてくるとなかなか楽しいものになります。経営学的なものの見方を養うことを忘れないでください。</p> <p>最後に、1年間の授業の成果をレポートに仕上げ提出してもらいます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への出席を最も重視します。夏休みにはレポート作成を課します。課題の提出、積極的な質問、レポートの充実度などを総合的に判断して評価します。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じて、プリントを配付します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の中で、指示します。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	09	通 期	4 単位	本 多 毅
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。	[講義計画] 原則としてテキストの章構成に従って進めていく予定。 但し、必要に応じて資料などを織り込みながら、今の企業の動きもトピックス的に捕捉していく。			
[成績評価の方法] まず第一に出席重視。それに授業態度、レポート提出などを加えて総合的に評価。	[参考文献] 授業中に適宜、指示する。			
[教科書] 土屋 守章 著 『企業と戦略』 メディアファクトリー				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	10	通 期	4 単位	本 多 毅
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。	[講義計画] 原則として、テキストの章構成に従って進めていく予定。 但し、必要に応じて資料などを織り込みながら、今の企業の動きもトピックス的に捕捉していく。			
[成績評価の方法] まず第一に出席重視。それに授業態度、レポート提出などを加えて総合的に評価。	[参考文献] 授業中に適宜、指示する。			
[教科書] 伊丹 敏之・加護野忠男 著 『ゼミナール 経営学入門』 日本経済新聞社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	11	通 期	4 単位	矢 倉 伸太郎
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。	[講義計画] 〈前期〉 後述の『ベーシック 会社入門』をテキストにして、現代企業の諸側面についての理解を深めます。 〈後期〉 後述の『ベーシック 経営入門』をテキストとして、現代企業の諸側面のうちとくに、その経営活動面についての理解を、さらに深めて行きたいと思ひます。			
[成績評価の方法] 成績は出席状況、平素の授業態度、前期と後期のレポート提出か又は前期と後期に行うテストの評点を、総合的に評価して決めます。	[参考文献] 必要があれば紹介します。			
[教科書] 〈前期〉 日本経済新聞社編『ベーシック 会社入門』 同社 1994年 (2版) (日経文庫 608) 〈後期〉 日本経済新聞社編『ベーシック 経営入門』 同社 1990年 (日経文庫 616)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	12	通 期	4 単位	山 本 浩 二
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめにやってみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見方や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことをつうじて学んでほしいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めてほしいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。目標は高いのです。①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めること。	[講義計画] 前期は、経営学に関する基礎文献を講読し、後期は、ベンチャー企業に関する文献を講読します。事前に、担当する部分の報告者を決めて報告してもらい、みんなで議論を行うことにしたいと思ひます。			
[成績評価の方法] 平常の出席と参加態度、担当部分の発表内容、レポートによって総合的に評価します。	[参考文献] 必要に応じて指示します。			
[教科書] 〈前期〉 斎藤毅憲『経営学を楽しく学ぶ』中央経済社 〈後期〉 ベンチャー企業に関する文献を指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	13	通 期	4 単位	や 梁 か 加 官 洙
[講義概要・学習目標] <講義概要> 日本的経営の実態とその変質過程を捉えて、日本国内での経営、アジアに進出している日系企業の経営、ヨーロッパ企業と労働者との関係などを比較して、その特殊性と普遍性について基本的理解を試みる。 <学習目標> 「日本的経営」が日本の労働者の生きざまにとって持つグローバルな意義を日本国内の企業社会の実態と海外の日系企業の現場を比較しながら、その光と陰を理解してもらう。特に、韓国、タイなど、アジア企業の労務管理システムと日本的経営との関連性について、政治経済の構造、歴史と文化、社会構造の異質性からアプローチして理解してもらう。	[講義計画] 1. 日本の職場の実態 2. 日本の労務管理の事例 3. 人事考課の論理と作用 4. 「日本的経営」とヨーロッパ労働者 5. アジア日系企業における労働の状況（韓国、タイ） 6. 日本企業社会の現在			
[成績評価の方法] 出席、授業時の態度、レポートを総合して評価	[参考文献] 熊沢誠 「日本の労働者像」ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993 牧戸孝郎編著 「岐路に立つ韓国企業経営」名古屋大学出版会、1994 白 弼圭 著 「韓国労使関係の新構造」日本経済評論社、1996			
[教科書] 熊沢誠 「日本的経営の明暗」筑摩書房、1989初版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	01	通 期	4 単位	柴 田 淳
[講義概要・学習目標] ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的概念を解説します。	[講義計画] 開講時に説明します。			
[成績評価の方法] 学期中に課題を出題しその提出状況で評価します。	[参考文献] 奥野正寛 「ミクロ経済学入門（第2版）」（日経文庫） 伊藤元重 「ミクロ経済学」（日本評論社） 中谷巖 「マクロ経済学入門（第3版）」（日本評論社） 福田慎一・照山博司 「マクロ経済学入門」（有斐閣）			
[教科書] 特に用いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	02	通期	4単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介し、この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れていくはずですよ。 講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランスー日米貿易摩擦と貯蓄ー 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、諸問題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式（命題に対する解説）をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。 			
<p>[教科書]</p> <p>惣宇利紀男、服部容教編『21世紀日本の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営管理論	01	通 期	4 単位	村田晴夫
	02	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営管理論は、工業化社会の展開に伴うかたちで理論形成してきた学問である。経営管理の歴史をたどりながら、それに重なって管理の理論がいかにか形成されてきたかを学んで行く。具体的には、科学的管理法の成立とともに経営管理の歴史が大きく展開することを見、さらにそれ以降の管理論史を工業化の進展と重ねながら説明する。やがて時代は情報化社会へと移行しつつ現代に至るが、その変化を、管理論の移り変わりを整理しつつ捉えて行く。また、組織論を一つの柱としながら、管理論をより包括的に構成し、変化しつつある現代から21世紀を視野に入れるようにする。</p> <p>学習目標：(1) 経営管理論の歴史的展開過程を学ぶこと (2) 組織論的管理論の基礎を学ぶこと (3) それらを通して現代社会の経営管理の諸相を見る目を養うこと</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：Ⅰ．工業化社会の成立と管理論の発展</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業化社会の成立 2. 科学的管理とその時代 3. 社会人の時代と管理 4. 組織と管理 5. 管理過程論の展開 6. 組織論的管理論の基礎 <p>後期：Ⅱ. 情報化社会に向かう管理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化の進展 2. 経営科学ー情報とシステム 3. 組織と環境 4. 組織と戦略ー戦略的経営 <p>Ⅲ. 組織論的管理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織と人間 2. 非営利組織のマネジメント 3. 組織論的管理論と現代 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>通年の試験を基礎として、何度かのテストを参考にして評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>村田晴夫『管理の哲学』（文真堂） 大滝精一他『経営戦略ー創造性と社会性の追求』（有斐閣アルマ） その他、そのつど指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商学総論	01	通 期	4 単位	中 田 善 啓
	02	通 期	4 単位	
〔講義概要・学習目標〕 企業が行っている取引を商学の観点から説明する。特に取引制度の進化のメカニズムを明らかにし、ダイナミズムに力点をおきたい。取引活動の目的は市場を形成することによって、企業内、企業間、消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に、これらの戦略はダイナミックに変化していくので、その進化のプロセスが重要である。	〔講義計画〕 1. 商学とマーケティング 2. 複雑系としてのマーケティング・システム 3. マーケティングと取引 4. マーケティングの進化 5. マーケティング・チャネルとその進化 6. 技術選択とその進化 7. 流行のメカニズム 8. 取引慣行とグローバル化			
〔成績評価の方法〕 期末テストを中心に成績を評価するが、場合によってはレポートの提出を求めることがある。期末テストは客観テストと論述式のテストからなるであろう。	〔参考文献〕 中田善啓著『マーケティング戦略と競争』 同文館 1992年 中田善啓著『マーケティングと組織間関係』 同文館 1986年 テドロー『マス・マーケティング史』（ミネルヴァ書房） 授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。			
〔教科書〕 中田善啓著『マーケティングの進化』 同文館 1998年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
会計学原理	01	通 期	4 単位	リョウゴウダ 徐 龍 達
	02	通 期	4 単位	
〔講義概要・学習目標〕 簿記会計が、どのような過程をへて発展してきたか、近代的な損益計算の考え方が、どのようにして、形成されてきたか、などについて検証しながら、期間損益計算の特徴をやさしく解説することに努めたい。会計理論がこれまで、静態論から動態論へ、さらに資金論として展開されてきたが、これらの考え方を学ぶことにも、今後の会計理論の展望を模索してみたい。 この科目は、簿記Ⅰの知識が必要である。簿記Ⅰを履修済みか（成績のいかんを問わず）、または、本年度から同時に履修することが要請である。	〔講義計画〕 〈前期〉① 簿記会計研究の意義 ② 財産法的貸借対照表の生成発展 ③ 静的貸借対照表論の前半 〈後期〉④ 静的貸借対照表論の後半 ⑤ 動的貸借対照表論 ⑥ 動的貸借対照表論の批判 （時間が許せば、資金会計論にも言及する）			
〔成績評価の方法〕 前期末にテストを行い、年度末テストとして総合して評価する。テストを受けなかった履修生のレポートは、いっさい受理しない。	〔参考文献〕 五十嵐邦正『静的貸借対照表の研究』 （森山書店） 安藤英義『新版商法会計制度論』 （白桃書房） あとは必要に応じて授業中に指示する。			
〔教科書〕 徐龍達（著）『ドイツ会計学』改訂増補版（KBS社1997年刊）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財務諸表論		通 期	4 単位	チヨン 全 ジェム 在 紋
[講義概要・学習目標] (講義概要) 企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成された、いわば企業の「証言」である。企業にとってこわいのは、虚偽の証言が発覚したときに受ける懲罰だけである。だから、ウソがばれないように巧妙に偽証している可能性も大いにある。財務諸表はいつい、どこまでが真実で、どこまでが企業エゴの発露なのか。それを見分ける目を養う。 (学習目標) ① 簿記1の学習内容を基礎にして、株式会社の資本会計を理解する。 ② 財務会計における慣習・判断の基礎(会計準準・会計原則)を理解する。 ③ 3年時以降に履修する経営学部専門科目の基礎となるべき本講義の役割を踏まえつつ、制度会計における損益計算論・貸借対照表論の概要を理解する。	[講義計画] [前期] ① オリエンテーション(1回) ② 会計必要論(戦略経営・節税効果等)(1回) ③ 計算書類論(AV使用)(2回) ④ 制度会計論(2回) ⑤ 資本会計論(2回) ⑥ 会計言語論(2回) ⑦ 会計原則論(2回) [後期] ⑧ 会計準準論(2回) ⑨ 資産会計論(2回) ⑩ 費用会計論(2回) ⑪ 収益会計論(2回) ⑫ 負債会計論(2回) ⑬ 会計言語論(再論)(2回)			
[成績評価の方法] 原則として、レポート(前期中1回)と筆記試験(後期学年末1回)との総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者には、別途加点評価する。	[参考文献] ① 武田隆二(著) 『会計学一般教程』(第2版) 中央経済社 ② 飯野利夫(著) 『財務会計論』(三訂版) 同文館 ③ 永野則雄(著) 『会計記事がわかる財務諸表論』(第2版) 白桃書房			
[教科書] 青柳文司(著) 『現代会計学』 同文館				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学原理		通 期	4 単位	谷 口 照 三
[講義概要・学習目標] 経営学の対象である経営は、諸環境との交互作用の中で展開される実践的活動である。この環境との交互作用の在り方が経営の衰退、成長、発展を具体的に規定する。経営の衰退・成長・発展の過程を原理的、具体的に捉えていくことは、経営学の最も重要な課題である。 本講義では、経営が行為主体的存在であること、および「成長」と「発展」の区別を基本的視座としながら、経営の発展形態を検討することにより、新しい時代の経営学の原理を探究していこうと思う。 受講生は、「成長」と「発展」の違いを良く理解し、現状への批判力と共に、将来への洞察力を身につけて欲しい。	[講義計画] <前期> I. 新時代における経営学の課題 1. 経営発展と現代の経営 2. 経営学と経営発展論 II. 経営発展論のフレームワーク 1. 経営発展論の方法 2. 経営発展の意義とその基礎過程 III. 事業発展 1. 多角化 2. M&A 3. 柔軟な専門化と戦略的連帯 <後期> IV. 企業発展 1. 企業形態の発展 2. 集団化と新しい企業形態の出現 3. トップ・マネジメント構造の発展とコーポレート・ガバナンス V. 経営発展 1. 戦略的マーケティング 2. 戦略的研究開発 3. 戦略的プロダクション 4. 戦略的ファイナンス 5. 組織変革とヒューマン・リソース 6. 環境志向経営への主体的変革			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験、および不定期小テスト、レポートの総合評価。	[参考文献] 必要に応じて適宜指示する。			
[教科書] 山本安次郎・加藤勝康編著『経営発展論』文眞堂、1997年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学史		通 期	4 単位	野 田 俊 範
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学は、ドイツとアメリカにおいて今世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。</p> <p>本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するするとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I. 経営学史研究の方法</p> <p>II. ドイツ経営学の歴史</p> <p>1. 私経済学の成立</p> <p>2. 私経済学から経営経済学へ</p> <p>3. 経営経済学の展開</p> <p>4. 社会的市場経済と経営経済学</p> <p>5. 共同決定と経営経済学</p> <p>6. 批判的経営学の系譜</p> <p>III. 現代のドイツ経営学</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験により評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>大橋昭一編著『現代のドイツ経営学』税務経理協会 1991年。 海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社 1994年。 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
組織倫理学 (旧経営・商学特講-組織倫理学)		通 期	4 単位	村田晴夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代は組織の時代と言われる。それは、企業に代表される組織体が社会の主要な機能を担っていること、そして人々は組織に依って社会的な活動をし、組織のなかで生活していることを意味している。企業の他にも、非営利組織の活動が近年重要性を帯びてきたこと、そしてそれらの組織の活動がますます国際的な拡がりをもつようになり、グローバル化してきたことが指摘される。</p> <p>一方、現代社会には、さまざまな問題が群をなして押し寄せている。問題群は(1)環境問題 (2)文化多元性の問題 (3)人間性の問題 に分けられる。環境問題はよく知られているけれども、われわれはその克服の展望を持ち得ていない。文化多元性の問題にはグローバリゼーションとローカリゼーションの問題が含まれるし、人間性の問題には組織の中に埋没して抑圧される人間の問題が含まれる。これらの諸問題はいずれも組織の諸活動と深く結びついている。当然、現代組織のありかたが問われなければならない。そこで、組織の本質は何なのか、組織活動はしかにあるべきか、が問われることになってきた。この問題意識を企業にあてはめたのが「企業倫理(ビジネス・エシックス)」である。本講義では、組織本質論から組織行動の価値論的側面に照準を合わせて、歴史的な視点から解説して行く。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期 (1) 組織倫理学でなにを学ぶか a. 現代社会の歴史的状況について b. 組織倫理学とはどういう学問か (2) 組織倫理学の形成 a. 組織論研究史に見る組織の本質にたいする考え方について b. 組織の形態 - 歴史の変遷と現代の組織 c. 経営発展と社会的責任について 後期 (3) 経営と社会そして自然 a. 企業倫理の考え方 - その成立過程と実践 b. 環境倫理の考え方 - 企業と環境倫理 (4) 組織と人間 a. 組織活動と人間の生の本質について b. 日米の組織倫理的比較 (5) 組織倫理学のめざすもの a. 理論と実践の統合 b. 問題対策から積極的経営政策過程へ</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>通年の試験を基礎として、何らかのテストを参考にして評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>西岡健夫『市場・組織と経営倫理』(文真堂) 宮坂純一『現代企業のモラル行動』(千倉書房) 加藤尚武[編]『環境と倫理』(有斐閣アルマ) その他、そのつと指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営史		通 期	4 単位	矢 倉 伸太郎
[講義概要・学習目標] 経営史とは、企業の生産・労務・販売・財務・経営者の意思決定過程といった経営諸活動を、歴史的事実に研究するものです。さて、われわれが経営史を勉強するのは、つぎのような理由によるものと思われまふ。すなわち、われわれは現在と同様にこれからも、上記の企業経営の諸活動とは無関係に、生活していくことはできないでしょう。それゆえ、われわれは現在において、企業の今後の経営諸活動がどのようになるのかといった事について、自分なりの見方や考え方を持たねばなりません。そして、この自分なりの見方や考え方を手づかみとして、企業の過去の経営諸活動を歴史的事実に研究するのです。つまり、温故知新であります。本講義では、いくつかのわが国の個別企業を取り上げて、それら企業の経営諸活動を通して、それら企業の発展過程を、歴史的事実に考察していく予定です。	[講義計画] 〈前期〉 わが国の各種機器・機械産業などにおける、いくつかの個別企業を取り上げ、それら企業が発展していく過程を、主として生産活動や経営者の意思決定過程の側面から、歴史的事実に考察する予定です。なお、授業は板書と口述によって行いますので、授業への出席が不可欠です。 〈後期〉 前期に引き続き同様な内容で行います。			
[成績評価の方法] 成績は、つぎの1～3の全ての評点を総合的に評価して決めます。 1. 授業内容の理解を深めるために、時々授業時間中に行うレポート。2. 不定期な出席調査。3. 学年末試験。	[参考文献] 必要があれば紹介します。			
[教科書] 使用しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
企業論		通 期	4 単位	稲別 正晴
[講義概要・学習目標] 企業は経済活動の単位であり、各企業は資源の調達、生産、流通活動を行い、またそれとの関連で様々な活動を行っている。この企業活動の基本ならびに、今日の企業が直面する諸問題を理解することが本講義の課題である。まず、今日の企業は法人の形態をとっており、主要な役割を担うのは株式会社である。株式会社を組織体としてみると、そこでは企業規模、組織形態あるいは組織内の権限と責任のあり方が問題となる。また、大企業では株式の所有と経営の分離がみられる。この場合経営者と株主、その他の利害関係者との関係が重要な問題となる。現在いろいろと論じられているコーポレート・ガバナンス問題はこれと関連している。さらに、今日の企業は市場経済と経済活動のグローバル化の進展に加えて、地球環境を守るという新しい課題に直面している。とくに環境問題への対応のあり方はこれまでの経営のあり方に大きな影響を与えようと考えられる。このように企業活動を理解するためには、企業活動の多面的側面を視野に入れなければならない。なお、本講義は日本の企業システムのあり方との関連の中で進める予定である。日本の企業システムは現在急速な環境変化の中でその変革を迫られている。いまは弱点ばかりが取り上げられている感があるが、大切なことは日本企業のなかに国際的に通用し、なにかが通用しないのかということがある。これはいわゆるグローバル・スタンダードとかかわる問題である。このような諸問題への理解を通して、受講生諸君がみずから日本企業のあり方について探求することを期待している。	[講義計画] 1. 企業とは 2. 企業形態 3. 企業と市場 4. 企業目的 5. 企業収入一需要の理論 6. 生産と費用 7. 価格と産出量の決定 8. 企業の成長 9. 「経営者企業」の成立 10. 所有と経営の分離 11. コーポレート・ガバナンス 12. プリンシパル・エージェントの理論 13. 取引費用の経済学 14. 日本の企業システム 15. 日本企業の海外進出			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験ならびにレポートによる	[参考文献] 教科書に記載			
[教科書] 稲別正晴著『企業の基礎理論』 法律文化社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営財務論		通 期	4 単位	今 木 秀 和
【講義概要・学習目標】 企業はさまざまな経営資源を必要としている。ヒト、モノ、カネ、情報などの資源がそれである。このうちカネという経営資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。 カネは企業では資本といわれる。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主たる問題領域である。企業外部における資本の調達は資本市場で行われ、調達した資本の運用は企業の内部と外部で行われる。したがって企業内部における財務管理、資本市場での調達と運用とも言い換えられる内容がこの講義のなかみである。経営財務の基礎知識を習得することがこの講義のねらいである。	【講義計画】 前期 第1章 企業財務の基礎知識 第2章 資本の運用 第3章 資本の調達 後期 第4章 配当政策と利益処分 第5章 ポートフォリオと資本市場 第6章 企業財務論の新展開			
【成績評価の方法】 成績は前期と学年末のテストに基づいてつけます。前期1回、後期1回のレポートは加点要素とします。出席も加点要素とします。	【参考文献】 岡部政昭（著）『企業財務論』（新世社） 明石雅弘他（編）『財務管理』（有斐閣） 若杉敬明他（著）『経営財務』（有斐閣） 村松司叙（著）『財務管理入門 増補版』（同文館）			
【教科書】 杉井弘和編著『企業財務論』（税務経理協会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営労務論		通 期	4 単位	面 地 豊
【講義概要・学習目標】 経営労務論は、「経営」における「労働」をめぐり論である。「労働をめぐり論」は、労働をめぐり「人間＝労働者」からの論と、労働をめぐり「経営」からの論に二分することができ、講義は、両方の側からの論を通して「経営労務」の内容を明らかにしていく。	【講義計画】 講義は、[I]序論[II]本論に分け、本論は基礎論と各論に分けておこなう。 [I]序論では、「労働」「経営」などの基礎概念を説明し、[II]本論の基礎論においては「労働者問題」の学説史的説明をおこなう。各論においては、賃金、労働時間、労働市場、労働関係、人事管理などさまざまな経営労務に関する諸問題について説明する。			
【成績評価の方法】 期末試験による。臨時テスト、レポート提出などを通じて考察するものもある。	【参考文献】 基礎論についてはテキストを用いたが、序論、各論については、その都度参考文献を挙げておこなう。1回講義をおこなう。			
【教科書】 面地豊『経営社会の生成』十倉書房				